

会員の皆様へ

新型コロナウイルス感染症の拡大に対処する奈良県知事の会見は、会見後に奈良県ホームページに動画と会見資料が配信されます。けれども、字幕や文字によるサポートがありません。

奈良県中途失聴・難聴者協会のご尽力により、文字起こし文をつけることができました。内容を忠実に文字に変えてもらっていますが、マイクの調整具合などの関係で、聞き取りにくい部分があったり、話し手が、曖昧な単語を使ったり、指示語を多用したりすることで、聞こえる人でも、内容の理解がむずかしい部分もあります。

そのような部分は、文字起こし文も読みにくくなっていますが、現時点でのできる限りの対応でありますことをご了承ください。

司会/ただいまより、第16回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を開会します。

県では、感染者を早期発見し、入院等による隔離を徹底することにより、感染拡大防止と重症化予防に努めてまいりました。

しかし、10月下旬以降、県内では、新規感染者が再び増加傾向に転じ、高い水準が続いています。

本日は、最近の感染情報について確認し、現状認識を共有するとともに、県民の皆様へ、年末年始を安心して過ごすための対策を寄与することとします。

それでは、本部長知事よりご発言をいただきます。

知事/今、中西さんから言われたような状況です。年末年始対策をどのようにするか。今日お諮りする、大きなテーマです。

2 ページ

4つの分野で、諮りたいと思います。

3 ページ

#### I 感染者の抑制

感染者が増えてきている中で、抑制できるのか。今までの分析を、たどっていききたい。

4 ページ

感染者を減らすには、感染経路の分析が重要なのは奈良県スタイルです。

まず、感染経路が全部わかっているのか。

感染経路が不明なのは、大きな心配、インパクトです。

第3波では、グラフにあるように、最初は5割ほど不明だが、そのうち4割に減る。

だんだん減ってくる。

5 ページ

次に、感染経路が、わかってきているもの。

1次感染と2次感染以降に分けています。

第2波と第3波の状況が変わってきています。

それを紹介します。

第2波、7月から10月まで400名。

第3波が今までのところ600名という状況です。

(第2波)400名いる中で、第1次感染と第2次感染では約半分半分。

第3波では、グラフにあるように、第2次県内感染が増えている。

6ページ、7ページ

どのように対策するか。

1次感染について。

大阪関連の感染が、1次感染の中で、76%あります。

8ページ

1次感染の定義は、行ってうつされる、来てうつされるというのがあります。

大阪関連は、大阪に行ってうつされるのと、大阪の人が来てうつされるのがあるが、ほとんど大阪に行ってうつされてきたケースです。

大阪以外のところに行ってうつされるのは、その他で24%ぐらい。(7ページのグラフ 黄色のところ)

大阪関連以外は、県外から来た人からうつった人と、県外へ行ってうつった人が、拮抗している。

大阪に限っていえば、大阪に行ってうつされた人が圧倒的。

大阪関連の人とそれ以外の人を分けた上で、このようなことがわかってきている。

大阪に行って感染するのを避けるには、特に大阪市が多いので、大阪市に行くのは控えましょうという忠告になる。

1次感染は、大阪とそれ以外になる。

9ページ

1次感染を年代別に見ると、20代と40代の方で、半分を占めている。

大阪での活動が活発な年代ともいえる。

50代は(気を付けなくても)いいというのではなく、特に20代、40代の感染者が多いので気をつけてくださいと言いたい。

10ページ

奈良県の特徴は、県内で2次感染された方の中で、病院内感染は14名、福祉施設感染は15名で、2次感染者376名のうち4%ぐらいずつしかない。

関係者の努力の賜物だと感謝する。

2次感染は、1次感染者との接触による感染になる。

2次感染者が奈良県でも増えてきている。

福祉施設医療施設で感染するのは大きな心配だが、今までのところは、これくらいしかないと報告しておきます。

11ページ

2次感染で県内感染になるが、どのようなパターンの感染が多いか。

家族、友人、職場がほとんどで9割くらいを占める。

とりわけ、家庭、友人との飲食が第3波では増えているのが実情。

家庭内では、うつらない、うつさない。

用心すれば、リスクを下げられる。

家庭内でも、うつされない家庭と、うつしている家庭に分かれる。

用心しているかどうかで差が分かれる。

友人との飲食でも、うつされる飲食とうつされない飲食に分かれている。

この大きなシェアを占めるところは用心してほしい。

年末年始は、職場は、あまりなくなるのではと思う。

## 12 ページ

県内2次感染者を年代別に見ると、1次感染者と違い、まんべんなく広がっている状況。

1次感染が20代、40代で半分を占めるのとは違う。

逆に、県内感染では70代以上の高齢者の割合も広がっている。感染経路からそのような分析をしている。

## 13 ページ

### II 年末年始のご用心

## 14 ページ

年末年始は、今、話したことを踏まえ、感染者を大幅に減らすチャンスです。

グラフにあるように、感染者は8月の末から減りだした。

8月24日からの統計はこんなに減った。

夏休みの過ごし方で減ったとも思える。

大阪に行く人も夏休みで減ったかもしれない。

あるいは外に出る人も減ったかもしれない。

今は感染者は高止まりになっている。

年末年始に減らないか。国もそう考えている。

奈良県では、感染者が8月24日から減ったように、年末年始に減ることを心から願っている。

このグラフの点線が実線になれば、しめたものだと思う。

年末年始への期待をこのグラフは表わしている。

## 15 ページ

年末年始の過ごし方について3つ言いたい。

1つは大阪に行ってうつされる人が圧倒的に1次感染が多い。

勤務が年末年始はなくなる。勤務以外で、大阪に行って、うつされることを避けたい。

大阪へ行くのは控えてもらうのがいいと。

大阪を槍玉に挙げているのではないが。

しかし奈良県の傾向から、1次感染は、4分の3、77%ぐらいが、大阪関連でうつされている。

大阪から来てうつされるより、大阪に行ってうつされる人がほとんど。

大阪に行くのを控えると、1次感染が激減するのではと期待している。

年末年始は、勤務で大阪へ行くことがなくなるので、そのほかで行くことを控えてもらえたらと思う。

それが第1です。

## 16 ページ

年末年始は帰省する方も多い。

帰省する方へのご用心。

帰省する前は余暇活動を控えましょう。

帰省を決めている人は、うつされる場に（行かないよう）用心しておこう。  
家に帰って、おじいちゃんおばあちゃんにうつすのは悪いと、心がけてほしい。  
帰省したら、家族で過ごすことが望ましい。  
帰省先で友人と会食するのは楽しみの一つだが、今年だけは、ぜひ用心してほしい。

#### 17 ページ

最後のお願になる。  
県内で、家庭での飲食だけでなく、外に出て飲食することも楽しみだろう。  
友人同士の会食で、騒いでうつすようなパッションにならないように。  
エチケットを守り、用心して静かに楽しみましょう。  
面白くないと思うかもしれないが、会食で、うつすことを避けるのを心がけてほしい。  
飲食の席で、うつすことのないように用心してください。  
それが幸いです。

#### 18 ページ

### Ⅲ 県内観光に際してのご用心

3つ目は、県内観光に際してのご用心です。

#### 19 ページ

これは先日、記者発表の資料と同じですが、年末年始における「いまなら。キャンペーン」についてです。  
改めて、簡単にご紹介します。  
キャンペーンの運用については、慎重に、かつ早急に決めたいと申し上げていました。  
慎重にというのは、県民の中には「いまなら。」の一時中止に賛成の方も反対の方もおられるということ  
を踏まえてです。  
ここに書いてあるように、奈良テレビの調査と、「いまなら。」コールセンターへのご意見は、双方とも  
積極的なものが多かったです。  
県民の方が県内に行かれる場合、今までのパターンからすると、うつしたりうつされたりするケースは非常に  
少ない。  
それでもこの風潮の中で、やめたらどうかと思われる方も当然いらっしゃると思います。  
県民の方のご意見を伺って、このような結果が出ました。

#### 20 ページ

その次は関係者のご意見です。  
医療関係者が約半数おられますが、医療関係者と経済界の方と、それぞれに伺いました。  
医療関係者は当然ですが、慎重なご意見でした。  
この際、一時停止をしたらどうかという方が圧倒的でした。  
経済界の方々は、用心して行けばよいのではないかというご意見でした。  
県民の方への Go To タイプのキャンペーンをしている県は少数ですが、継続される所が多いと聞いています。

#### 21 ページ

そのような調査・検討を踏まえて、年末年始は「いまなら。」を継続したい。

その際、年末から追加発売を考えていましたが、追加発売をして後押しするのは控えさせていただきます。

## 22 ページ

感染症対策は、今まで観光業界にもお客様にもしていただいています。

「いまなら。」(での感染)は、県民の方同士や県内事業者との接触で起こるものです。

県民同士の話ですので、ことさら気をつけていただきたい。

県内観光される皆様への願いは、「旅のマエ」と「旅のナカ」と「旅のアト」、それぞれ前後を含めてうつらない、うつさない行動に気をつけていただきたい。

## 23 ページ

「旅ナカ」は、旅行中の飲食のご注意です。

ここに書いてあることは、日頃のことでもありますが、ご注意をお願いしたい。

事業者の方には、別のガイドラインを出していますので、感染症対策の徹底をお願いしたい。

「いまなら。」を年末年始も継続します。

県民の方同士の接触になるので、「いまなら。」から感染が発生しないように、ぜひよろしくをお願いします。

## 24 ページ

### IV 入院・医療体制、重症化予防

最後に、入院・療養体制、重症化予防について。医療関係です。

## 25 ページ

この年末年始は、通常医療が普通でも盛んになるときなので、通常医療の提供に万全を期したいと思っています。現在までのコロナ病床対応ですが、今まで、確保病床を前提に割合を出していましたが、運用ということをやっています。

最初から全面的に確保病床をいつもオープンにしていると、通常医療への圧迫が大きくなるので、通常医療を圧迫しないよう、オペレーションを運用してきました。

## 26 ページ

重症対応は 27 床確保していますが、実際の運用は 18 床です。

入院者数が増えると、空きが少なくなってくるので、確保病床を運用病床に転換する。

それをこの表を見ながら、前広にやるというオペレーションをしてきました。

今後もそれを続けていきたいと思っています。

現在の運用病床の空き病床は、8 床です。

この動向をずっと見ていきたいと思っています。

## 27 ページ

運用の状況をグラフにすると、このようになります。

空きの様子の方が大事なので、そこに色を塗っています。

空き病床が 8 床、占有率が 56%。

空き率は 44%になります。

運用から見る傾向は、矢印がやや上がり気味。

高止まりという状況になっています。

#### 28 ページ

重症病床も含めた入院全体は、運用と確保に分けて提供しています。

運用病床は 324 床まで。

確保病床は将来 467 床までいくよう、病院と話をしています。

入院者数は増えて 201 人、占有率は 62%。

空き病床が 123 床あります。

運用が何よりも大事なので、運用の空きが逼迫しないようにしています。

#### 29 ページ

次のグラフで入院病床の占有率の動向を見ていくと、11 月 22 日頃が大変逼迫の状況にあったことがわかります。

その後、運用の病床を増やしたので、占有率は下がってきています。

運用病床の占有率の状況は、現在ではやや下がり気味になっているのが現実です。

#### 30 ページ

軽症者の入院も多いのですが、軽症者は宿泊療養とどちらでもいいので、入院の運用病床が逼迫すれば、宿泊療養を増やしたいと思います。

宿泊療養は 108 室確保しています。

今、入所者が 66 人、60%を超えています。

残りは 42 室です。

軽症者がこれからも多くなるので、確保に向かっていたですが、

12 月 30 日から 108 室を 250 室にする体制が整いました。

これは、後程、詳しく言います。

宿泊療養を 2.5 倍確保することが、この年末に向けてできたということです。

#### 31 ページ

宿泊療養の占有率は現在、61%になっています。

これが次のページになりますが、250 室体制、確保できました。

#### 32 ページ

奈良市内で 90 室、大和郡山市内で 50 室。

大宮駅前に運用中の 108 室と合わせて、12 月 30 日から宿泊療養 250 室体制になります。

#### 33 ページ

最後に、年末年始の医療提供体制・ご相談体制ですが、ここに書いてあるように、27-1132 にご連絡いただければ、24 時間体制で対応しますので、ご心配なきように。

#### 34 ページ

それから検査ですが、12 月 28 日から 1 月 1 日の間は、毎日、ドライブスルー検査を実施します。

通常の医療体制は、年末年始は夜間も含めて県内 11 ヶ所の休日夜間応急診療所が、発熱患者に対応することになっています。

休日夜間体制を、年末年始は実行します。

ここに書いてある休日夜間応急診療所が開設されています。

なお、患者様の救急車の受け入れですが、年末年始は毎日、12 以上の病院で患者の救急受け入れをすることになっているので、この点もご安心いただきたい。

ここに書いてあるのが、病院の救急搬送先です。

以上が、今日の年末年始に向けた対策会議の概要です。

県民の皆様には、ぜひご用心しながら、静かな年末年始をお過ごしいただきますよう、重ねてお願いします。よろしく申し上げます。

司会／それではこのほか、この場で情報を共有すべき事項、確認事項等があれば、ご発言をお願いします。

それでは、本日の本部会議の確認事項としてお諮りします。

ただいま知事からご説明があったように、年末年始に向けて、感染者の抑制に取り組むとともに、県民の皆様に対してご用心をお願いします。

併せて、安心のできる入院・医療体制を守るべく対策に全知を挙げて取り組むということで、本会議の方針としてご承認いただけますでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、以上で第 16 回奈良県新型コロナウイルス感染症対策本部会議を終了します。

引き続き報道機関の皆様のご質問をお受けしますので、本部委員の皆様はご退席ください。

それでは質疑応答に移らせていただきます。

2 時 30 分から、議会への同様の説明がありますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

それでは、質疑をお受けします。

挙手にてお願いします。

記者／読売新聞のサコです。

「いまなら。キャンペーン」について。

他の自治体では、一部独自キャンペーンを中止するところもあるかと思う。

そういった中で、奈良県では継続という決定をされた。

その理由について改めてお伺いしたい。

知事／Go To の一時停止について、議論しました。

Go To と「いまなら。」は、範囲がずいぶん違う。

「いまなら。」は、県民が県内を旅行されるという制約がある。

それを踏まえた上で、年末年始に一時停止すべきかどうかを検討した。

「いまなら。」の性格について。

今までの状況は、1次感染は大阪に行ってうつされる、2次感染は家庭内。

飲食という点では、「いまなら。」と関連する。

これまでの状況はそのようなことだということ踏まえて、年末年始だけでなく、「いまなら。」を継続している中での、2次感染の飲食の分野は、家庭内が圧倒的に多いというのを見て、判断された方もおられたと思います。我々も、統計の分析と、県民のご意見の両方を踏まえながら、と考えてきました。

また、「いまなら。」に対する期待にも根強いものがある。

総じて言えば、用心してうつさないようにするから、「いまなら。」を継続したいという意見の立場に立ったということになる。

ご心配の向きはあると思います。

医療関係者が一番心配されているのは、「いまなら。」でうつすと心配する方もあるだろうが、ドンチャンしていいという風潮にならないようにということだと思います。

ことさらのご注意で大変恐縮だが、うつすような行動をしなければ、「いまなら。」プロパーでうつすケースは少ないのではと思っています。

ご用心さえしていただければ。

気が緩まないようにということのも難しいですが。

ご家庭でもだが、外に行っても、深く用心をしていただくと、うつす確率は確実に減っていく。

そう思います。

くどくご注意申し上げるのは心苦しいが、年末年始は特に減らすチャンスです。

「いまなら。」は継続するが、減らすチャンスなので、くれぐれも気をつけていただければと思います。

くどい話になりましたが、そのような気持ちです。

記者／ありがとうございます。

記者／毎日新聞です。

9ページの、特に20代40代の方は少人数で静かに県内で、という呼びかけについて。

少人数というのは、どれくらいの人数をイメージされているのでしょうか。

知事／20代40代の方が大阪に行って、うつされたのではないかと推察をしているだけです。

20代40代の方の特徴ということでもないが、経路分析を見ると、2次感染と1次感染では、ずいぶん違うように見える。

(探しながら)フリップがなくなりました。

(印刷資料を示しながら)こういうことになる。

こちら(9ページ)が1次感染。

20代40代で半分になる。

こちら(12ページ)は、全然その量が違うという。

これが、1次感染と2次感染の20代と40代の位置づけです。

特にこちら(9ページ、一次感染)の20代40代のかたが、半分以上を占めている。

これは、大阪での活動ということになるのかなど。

これは、この傾向から見た推察です。

こちら(9ページ)が1次感染の20代40代のグラフ。

これ以上のことを類推することは難しいが。

このようなことから、これが大阪市に行ってうつるということは…。



これから（言うことは、先ほどは）申し上げなかったのだが、年末年始に20代40の方は、大阪にわざわざ行かれる方もあるかもしれません。

これもくどいとおっしゃるかもしれないが、このような傾向なので、元気で…。

大阪でなじまれているところもあるだろうが、年末年始は控えていただけたら。

この（12ページ）県内の感染というのはグラフのように、わかれている。

（グラフの）ここから60代です。

重症化や死者は、60代70代の方が多くなっている。

合併症、他の体の調子もあるので。

こちら（60代70代の人）の方へ、家庭や帰省などで、2次感染させないように、うつされないように用心していただきたい。

類推ですので、ご注意のもとになる、という程度ですが。

記者／そこに少人数と書いています。

次のボードにそこに少人数と書いてあるが、何人ぐらいのことを言ってるんですか。

知事／そういうご質問ですか。

少人数は少人数ですので。

相対的なことですね。

大人数でないのが少人数です。

ふふふ。（笑）

記者／それは私もわかります。

例えば5人以下だとか…。

知事／そういうことは申しません。

大家族のときの人数と小家族のときの人数とは違う。

ま、これは屁理屈だが。

屁理屈なのだが、人数の数は違っていいでしょ、というような感じがします。

そういうご質問でしたか。

ちゃんと（質問の意図を）取らなくて申し訳ありませんでした。

少人数は、大人数でない人数というふうに、屁理屈を申し上げたいと思います。

ふふふ。（笑）

記者／それと病床の関係なんですが、

病床の確保。

コロナ対応病床の関係についてです。

重症対応病床について今日示された表では、現在18床が運用可能、確保しているのは27床というデータです。

27床というのは、今実際に他の疾患で入院されている重症患者を除けた数を言ってるんですか。

知事／今の、確保病床の現状について。

具体的に何病院に何床というのは明示していないが、私には届いている。

現実として、確保病床は、空いている病床（のこと）で、普通の病床に使っています。

そこを重症病床化するには、何がいるかというのになる。

ICU だとまた違うが、重症病床は、人が来れば重症病床化できる。

人が足りるか足りないかということなので。

病床は今、通常病床として使っているものもある。

しかしそれは、すぐに重症病床化できる。

問題は、人がちゃんとすぐに揃うかどうかということ。

通常病床に行っている看護師さんに、通常医療を止めて重症病床専用にしてくださいという割り振りをすれば、重症病床確保病床から重症病床運用病床になります。

それは病院のほうでもしてもらうことになります。

医師と看護師がいれば。

機械は人工呼吸器とかは、持ってきても、それはすぐに行きます。

ECMO は大事だが、今まで ECMO を奈良県内で使ったのは、一つだけだよね。

ECMO というのはね、最近聞いたら思いのほか簡単にできるよと、現場が言っています。

最初慣れてなかったので心配しましたけれども。

大がかりな、ECMO を使った例は一つ。

普通は人工呼吸器とかで済むものですから。

重症になられた方の、看護とか監視は大事です。

それには、たくさんの看護師が必要です。

確保病床から運用病床にする手だてをご心配だと思います。

ただ、私が聞き取ったところによると、思いのほか難しいわけでもなさそうだという感覚であります。

記者／もう一点。

具体的な病院の病床数の振り分けですが、

県の掲げている病床数は、県内 11 の重点医療機関の合計数だと思います。

病院への取材もしていると、

この 11 の病院以外でも入院患者を受け入れられないかという声も出ていると聞いている。

知事としては 11 医療機関以外に、民間も含めて、受けてくれるよう呼びかけをする予定はありますか。

職員／今現在、確定患者さんを受け入れると意思表示をしている病院が 11 病院あります。

それ以外の病院についても、私の方から働きかけをして、確定患者さんを診られる病院がもう少し増えないかどうか、調整はさせていただいています。

知事／多分ですね、発生者が北和のほうが多いということも踏まえて、北和の病院のほうが、数が多かったり、病床数も多かったりする傾向があると思って対応している。

南和は心配。

南和病院に受け入れてもらっているはずですよ。

職員／南奈良医療センターです。

知事／ああ、(病院名は)南奈良医療(センター)です。

南奈良(医療センター)以外にあまりないですよ。

あるとすれば五條(病院)とか療養病院です。

それと、軽症が多いことを踏まえると、もう一つは病院じゃなしに宿泊療養ですね。

これ（30 ページ）は奈良市と郡山市です。

南で宿泊療養はあるかという声はありますね。

それは軽症で入院の代わりというとき。

重症になると、分散的より集中的の方が安心だということにもなります。

重症は、手当の良いところにある程度集中してもいいと思っています。

軽症の方は分散して家に近いところになると、南和の宿泊療養施設はまだない。

実は南和で探していますが、南和は宿泊施設も少ない状況ですので、まだ手が挙がってきません。

（南和では）軽症の人は入院ということに頭がいくと思いますが、宿泊療養施設があると、軽症ならしばらく宿泊療養でも大丈夫です。

中等症・重症は、数は少ないです。

近くというよりも安心なところを優先してもらっていいと思います。

重症患者受け入れは、数カ所にわかれています。

重症だとわかったら、南の、家の近くというより、重症対応経験豊富な病床の方がいいのじゃないか。

現場のお医者さんの判断になりますが、行政から見てもそう思います。

記者／NHK のオイカワです。

今の医療体制の関連で伺いたい。

病床を確保する上でスタッフの確保が大事と知事はおっしゃった。

現状、県内の医療機関で、看護師の確保について更なるケアが必要な状況というのは上がってきていますか。

それとも各病院に任せる形で人員確保は可能というご認識でしょうか。

知事／病院の配置とか、お願いは県で医療政策部長中心にやってきていただいています。

年末年始を迎えて、私も直轄的にやると宣言しました。

この前、県立医大と総合医療センターのスタッフから直接話を聞きました。

年末にも、一度話を聞こうかと思っています。

最初のとき、大変頑張っていたでいて、もう本当に頑張っていたでいてることを聞きました。

軽症でも入院とするとやっぱり通常医療を圧迫します。

できるだけ宿泊療養を増やすことで入院患者数を減らすと、通常医療に余裕ができます。

そのように年末もしていきたい。

そうすると入院病床の余力が出て、医療従事者にとっても良いことだと思っています。

幸い重症の患者の数は少ないです。

重症患者には皆、緊張します。

その様子も伺っています。

年末年始は、他の病院とかクリニックは閉まる場所が多いので、救急の患者が急性期、県立に集中する。

従来からの傾向です。

コロナが増えて、急性期が増えてとなると、現場が大変。

心構えされているが、たいへん。

急性期が増えていくのは通常のことです。

できればコロナの軽症患者は宿泊療養へ。

12月30日から軽症患者は療養で。

これで病院の負荷をちょっと減らすことができたらと思っています。

軽症で入院されている方も多いので、それを減らしていけたらと思っています。  
それと、病院の取り方（受け入れ方？）がちょっとずつ違ってくると思っています。  
軽症が多いことはわかってきている。  
軽症の受け入れは、入院の場合もあるし、宿泊療養もある。  
宿泊療養も看護師さんが常駐されているので、安心していただける。  
宿泊療養を増やすことによって入院の通常医療のしわ寄せを軽減させる。  
年末年始を機会に考えられたらと思っています。

記者／県民の皆さんの過ごし方の呼びかけのことで伺いたい。  
前回の会議の中では大阪への行き来については、余暇活動は自粛してくださいという呼びかけ方だった。  
今回は、余暇と限らない形の言い回しになっていますが、これは行動制限の度合いをより強めたと理解していいでしょうか。

知事／いえいえ。  
年末年始ですので大阪に行かれるのは勤務以外でのことだと思う。  
余暇活動と書いても、飲食とか遊びに行くと書いても、この「行くのは」っていうのは、勤務以外で行くということです。  
年末年始は俺は働きに行ってはいけないのかって言われると、それはちょっと違います。  
「大阪に飲食に行くのは」と書けばよかったということです。  
広げるというよりも、大阪に飲食に行くのは控えてくださいというつもりで書いた。  
ちょっと書き足らずということです。

記者／ありがとうございます。  
感染の分析の中で、2次感染以降は、家庭内感染に加えて飲食での感染が多いと示されました。  
これに関連して今、国から各都道府県に対して、年末年始のGo To イートの扱いをどうするのか検討するようにと話が来ていると思う。  
イートの取り扱いに何か制限を設ける必要があるとお考えでしょうか。

知事／家庭以外に友人との飲食で2次感染というのが大きな割合を占めています。  
職場はちょっと少ない。  
友人との飲食でどのように感染されるのかは、詳細はわからないところもあります。  
飲食クラスターと言われるが、その場所が悪かったのか。  
奈良の場合、あんまり出ないが時々出ます。  
奈良の居酒屋、桜井の居酒屋、最近では香芝のクラスター。  
カラオケクラスター。  
カラオケを飲食に入れていますが。  
私の察知するのは、そのクラスター的な三つです。  
奈良市の場合、飲食のオーナーが人を呼び集めてうつした。  
桜井もそう。  
香芝のカラオケは仲間で歌ってうつした。  
そんなケースですので、友人同士の会食で騒ぐのは気をつけましょうというところに繋がってくる。  
だから、Go To イートの罪に直截的にはならないと思う。

クラスター的なものは、行ってその場でうつされることはない。

あとのケースは、うつした人が友人だった。

濃厚接触で飲食のとき、うつされたというケースがほとんどだったと思う。

それは飲食の罪ではなく、一緒に歩いていても、一緒に勉強していても、議論していてもうつる可能性はあります。

飲食をしたからというより、その感染者が前に来て話をしたからということで、食事からうつるわけではない。そういう人を避けるのは、余計困難です。

感染者になれば隔離されるが、感染者でない人が目の前に来て、一緒に食事しようと言われたら、うつるチャンスを自ら作ったということにはなるが、全部排除をすべきかとなる。

もっと器用にやるなら、あなたはうつっているのかと尋ねて、ちょっと心配だったら、今回はやめるということができれば、コロナは退治できる。

コロナは発症前にもうつりますので。

うつっているかどうかわからないので、どんどんうつしていくということが、世界中で起こっている。

ヨーロッパやニューヨークのように、あんなに増えてくると、飲食全部やめようとなるが、そんなケースはそれほど多くない。

気をつければいいのではないか。

圧倒的に飲食でうつしてきたのなら、飲食を控えましょうとなる。

これも判断だが。

その他の要素でうつるケースが多いなら、その他の要素の方に気をつけたらどうでしょうか。

大阪に行ってうつされるケースのほうが、リスクは高い。

量的にリスクが高い。

奈良での飲食は少ない。

少ないから安全安心だということではないが、用心するぐらいでいいのではないかと判断している。

経済との両立というのは難しい点がある。

うつされ方の多さを見て、指示の仕方を加減してるように見えるかもしれません。

記者／奈良テレビ放送ホンダです。

宿泊療養についてお聞きしたい。

大和郡山市内と、奈良市内の宿泊療養施設。

ホテルの名前を教えてくださいませんか。

職員／まだ施設の事業者と調整中ですので公表は、ちょっと先になるかと思えます  
現時点では、公表は差し控えさせていただきます。

記者／30日から運用ですけれども、いつ頃になりますか。

職員／今週末ぐらいを目途に公表できればと考えております。

記者／ありがとうございます。

あと、先日の知事の会見で、ステップ1、2、3とあって、そのステップ3が、宿泊療養に関して、108プラスアルファと書いてあった。

ステップ3になるのは12月30日からという認識か、それとも今すでにステップ3ですか。

知事／ステップ3には、もう入ってます。

もうその頃から公募をしていましたが、プラスアルファの実現ができなかった。

通常営業されていますので、宿泊療養用に空かなかった。

予約を解除して（部屋を）空けてもらって、やっと12月30日に全館利用できるようになったというのが実情です。

ステップ3には、この前言ったときから入っていました。

プラスアルファが、現実には今250になったということです。

さらに南和でも宿泊療養があれば、医療の圧迫が少なくなるという観点から、プラスアルファを探しているが、宿泊施設が少ないのでまだ出てきていない。

記者／南和での宿泊療養を増やすというのは、奈良市と郡山市の宿泊療養が運用されてから、本格的に取り組まれる予定ですか。

知事／このプラスアルファ二つは、奈良市と郡山市ですが、発症者が北に多いということを踏まえてのことです。

南和やっぱり感染者は少ないですよ。

だから宿泊療養までいらないということでしたが、南和でも発生はぼつぼつとあります。

南和の方は、家の近くで、宿泊療養希望される方もおられると思いますので引き続き探していきたい。

記者／いただいた資料15ページのところに県内で過ごす、大阪に行くのは控えましょうとあるが、大阪市のことですか。

知事／先ほど、NHKからご質問ありました。

大阪に行くこと自身（自体）電車に乗ってもいけないのかって。

ちょっと書き足らずでした。

大阪では飲食でうつされている。

余暇活動と言っていました。累積すると今まで若者の20代40代が飲食でうつされていたのが多い。

行き慣れているのかもしれませんが。

奈良はおもしろないさかいと、大阪に行って遊ぶのはちょっと止めてというのが内実。

それをうまく書けなかったということです。

記者／これは大阪府全体を指して言っているのか。今までどおり大阪市ですか。

知事／今まで大阪市と言っていたが、すると大阪市に行かなきゃいいのか、大阪の隣で遊ぶところに行くわとなる。それも困ります。

大阪へ行って、遊興施設や、うつりそうな場所に行くのはやめましょうと言う意味です。

大阪は市からちょっと広げてもいいから、うつりような場所へ行くのは控えてくださいね。

むしろ県内で過ごしてくださいねということです。

大阪以外で、もっと安全なところに行ってもらってもいいです。

うつされることのないようにというのと同じ意味です。

いつも書き足らずのことがあるので、ちょっと注意しておきます。

記者／大阪市から範囲を広げられたということですね。

知事／そうです。

記者／あともう一つ。

都道府県によっては、知事が年末年始の行動自粛を結構強く呼びかけてらっしゃるところもある。奈良県としては、気をつけようということで、強い呼びかけにはならないですか。

知事／そうですね。

それは規制のことですか。

記者／年末年始の過ごし方です。

知事／年末年始は、これしちやいかんということばかりで大変恐縮です。

具体的に申し上げなかったが、初詣。

神社のほうも分散してきてくださいと言っておられますので、年末年始は、うつるところには行かないで。とにかく年末年始に感染者数を大幅に減らしたいと、国も奈良県も思っている。

年末年始は、ずっと行動自粛可能です。

気をつけていただくと、こんなに減る可能性がありますよ。

夏はどういうわけか行動自粛の声が大きかった。

秋からはちょっとずつ広がってきて、緩んで伸びてきた。

年末年始がチャンス。

行動自粛すると、これ（34 ページ、感染者数グラフ）が減るということを実現したいと思います。

そのためには、静かに暮らしましょう。

うつらない行動をしてもらえばそれでいいです。

究極は自主判断になりますが、気をつけて行動していただくようお願いします。

このように大幅に減ることを願っています。

記者／ありがとうございます。

司会／よろしいでしょうか。

記者／産経新聞のクワジマです。

先ほどから知事が宿泊療養を増やしたいとおっしゃっていますが、神奈川県で宿泊療養者が急変して、亡くなられる事例があった。

宿泊療養をどんどん増やしていくと、急変される方が出てくるリスクは高まると思う。

どのような対策を考えておられるか。

知事／宿泊療養で亡くなられた、神奈川県の場合はよくわからないが、一例が、一事が万事ということもありうる。

軽症の方が重症化、死亡ということになるので、そのお医者さんの見立てということになります。

宿泊療養に行ったから亡くなったわけじゃないと私は理解しています。

職員／宿泊療養ですが、常時看護師さんが配置されている体制になっています。

朝夕の検温と発熱のモニタリング等もしています。

異常があれば直ちに医療機関に繋ぐようにしている。

宿泊療養施設で重症化が起こらないよう十分に配慮しながら、引き続き運用していきたいと考えています。

記者／ありがとうございます。

司会／それでは朝日新聞さんどうぞ。

記者／ちょっと確認したい部分があります。

以前発表いただいたときは、確保病床を全てすぐ稼働できるようにしたいというお話だった。

今回は通常医療のことを考えて、運用病床が足りなくなったら、確保病床を運用病床に切り替えて対応するっていうことですか。

知事／今まで、発表資料は確保病床一辺倒だった。

運用病床を実際オペレーションしてみて、重症病床やコロナ病床を最初から空けておいて他に使わないということではなく、通常医療に使っておいて、コロナに転換するということで確保（病床）を運用(病床)にする。通常病床からコロナ病床に転換する。

そうすると確保病床がコロナ病床になるというオペレーションだった。

発表していなかった。

明日からでも運用病床と確保病床との違いを明示して発表資料にしようと思っっています。

これ（28 ページ）は一般入院病床の運用病床、確保病床ということです。

このような発表資料にしようと思っっています。

ご了解いただけたらと思います。

これ（28 ページ）は実働病床、これは約束病床という意味です。

今は実働病床の空き病床が少なくなると、心配だからという運用オペレーションをしている。

確保病床から運用病床へのやり方は、医師・看護師が移動すれば上に上がりますよということになります。

それはそんなにかからずにできると思う。

通常医療との転換を、ずっとオペレーションしている。

今日か明日かという、数日かかるところもあるかもしれない。

今ちょっと難しいという病院が出てくるかもしれません。

私の印象は、病床数の多いのは県立医大とか奈良総合（医療センター）、西和、南奈良総合（医療センター）とか県立系。

県立系は、私からある程度相談もできるので心強い。

他の病院も、確保病床、運用病床に入っている。

重症病床にも入っています。

県立系の病院は本当に頑張っていたいただいていると思っっています。

だからこのオペレーションであれば、スムーズにきているのが実情です。

司会／他の質問はよろしいでしょうか。

それではこれで終了させていただきます。

ありがとうございました。